

正誤表

「微分積分―高校数学のつづき―」 第4版 第1刷

注：背景色が、 赤色は削除、 紫色は変更元、 空色は変更後、 緑色は追加を表す。

第1章

頁/行	誤	正
-----	---	---

第2章

頁/行	誤	正
-----	---	---

第3章

頁/行	誤	正
65 ページ/ 下から4行目	・ コーシの平均値の	・ コーシ の平均値の
69 ページ/ 3-4 行目	$x = a$ の近くで定義された関数 $f(x)$ と $g(x)$ はともに微分可能で、	$x = a$ の近くで定義された関数 $f(x)$ と $g(x)$ は ともに微分可能で、
69 ページ/ 8 行目	証明 $f(a) = 0, g(a) = 0$ とすると , $f(x), g(x)$ は	証明 $f(a) = 0, g(a) = 0$ と 定義すると, $f(x), g(x)$ は
70 ページ/ 10 行目	点 $x = a$ の近傍で定義された関数 $f(x), g(x)$ がともに、	点 $x = a$ の近傍で定義された関数 $f(x), g(x)$ が ともに、
75 ページ/ 5-6 行目	微分可能であるとき C^∞ 級関数という.	微分可能であるとき 無限回微分可能 , もしくは, C^∞ 級関数という.
98 ページ/ 14 行目	$\theta = \operatorname{Arctan} \frac{y}{x}$	$\theta = \operatorname{Arctan} \frac{y}{x}$ (脚注参照)
脚注	(脚注) この表現は象徴的なもので、詳しくは、 $\theta = \begin{cases} \operatorname{Arctan} \frac{y}{x} & (x > 0, y \geq 0) \\ \frac{\pi}{2} & (x = 0, y > 0) \\ \operatorname{Arctan} \frac{y}{x} + \pi & (x < 0, y : \text{任意}) \\ \frac{3\pi}{2} & (x = 0, y < 0) \\ \operatorname{Arctan} \frac{y}{x} + 2\pi & (x > 0, y < 0) \end{cases}$	

第4章

頁/行	誤	正
108 ページ/ 11 行目	面積は $\int_a^b (g(x) - f(x)) dx$ で与えられる.	面積は $\int_a^b (g(x) - f(x)) dx$ で与えられる(詳しくは「ガバリエの原理」(141 ページ)を参照).

	112 ページ/ 3-4 行目	
誤	$(1) \int \{kf(x)\} dx = k \int f(x) dx$ $(2) \int \{f(x) + g(x)\} dx = \int f(x) dx + \int g(x) dx$	
正	$(1) \int \{kf(x)\} dx = k \int f(x) dx \quad (1') \int_a^b \{kf(x)\} dx = k \int_a^b f(x) dx$ $(2) \int \{f(x) + g(x)\} dx = \int f(x) dx + \int g(x) dx$ $(2') \int_a^b \{f(x) + g(x)\} dx = \int_a^b f(x) dx + \int_a^b g(x) dx$	

頁/行	誤	正
119 ページ/ 下から 12, 11 行目	不定積分は同じ形の有理関数か, 逆正接関数である.	不定積分は同じ形の有理関数か, 対数関数, 逆正接関数である.
125 ページ/ 下から 8 行目	関数がある点で無限に発散して	関数がある点で無限大に発散して
126 ページ/ 4 行目	と表す. (4.4) や (4.5) のような積分	と表す(ただし, $b = \infty$ のときは $\lim_{c \rightarrow \infty}$, $b = -\infty$ のときは $\lim_{c \rightarrow -\infty}$). (4.4) や (4.5) のような積分
129 ページ/ 下から 8 行目	十分条件を 0 と ∞ の近傍で	十分条件を 0 の近傍と x が十分大きいところで
129 ページ/ 下から 4 行目	次に, ∞ の近傍では	次に, x が十分大きいところで

	147 ページ/ 練習問題 4.4 の 14.	
誤	$(1) \text{ カージオイド: } r = a(1 + \cos \theta)$ $(2) \text{ レムニスケート: } r = a^2 \cos 2\theta$	
正	$(1) \text{ カージオイド: } r = a(1 + \cos \theta) \quad (0 \leq \theta \leq \pi)$ $(2) \text{ レムニスケート: } r^2 = a^2 \cos 2\theta \quad (0 \leq \theta \leq \frac{\pi}{4})$	

第5章

頁/行	誤	正
158 ページ/ 16 行目	1つに島や大陸であるということである.	1つの島や大陸であるということである.
163 ページ/ 下から 6 行目	点 $P(x, y)$ が点 $A(a, b)$ と異なるように	点 $P(x, y)$ を点 $A(a, b)$ と異なるように
177 ページ/ 11 行目	定義 5.5 (C^m 級関数) $n \geq 1$ とする.	定義 5.5 (C^m 級関数) $n \geq 0$ とする.
177 ページ/ 下から 9 行目	関数が C^m 級関数である.	関数が C^m 級関数である. ただし, C^0 級関数とは連続関数のこととする.
195 ページ/ 7 行目	$\theta = \operatorname{Arctan}\left(\frac{y}{x}\right)$	$\theta = \operatorname{Arctan} \frac{y}{x}$ (98 ページ脚注参照)

第6章

頁/行	誤	正
-----	---	---

第7章

頁/行	誤	正
-----	---	---

索引

頁/行	誤	正
341 ページ/ 第3欄の下から 14 行目	レムニスケート・・・147	レムニスケート・・・137, 147